

中軍勢を引寄せ味方より一時移りてある浅水に
如所成るに逢ぬらんやと計りあへり急ぎ連判起證文を
認めし旨に逢進し水に上り攻め大に獲ひ即ち中軍に出雲守
重長を大將として数千騎を率へて向ふる由陽水なく
風吹有るに右馬路に當る處のあ人太に驚き急ぎ山に注進
あけられ義光公も驚き思召し早速草置虎を助と大
將として数千騎を率へて向ふれ義光公も退け後詰有
へる中にて虎を助急ぎ尾浦の城へ馳せある人に對面し
軍評定相定めける然るに右馬路より城中の女童
等を敵に取らん事二惜も次第あり是を敵へ送らん

とてけり言番にやれ云番望み果たりは戦ひに浅水に
女童を引連れ落行く中言にあらま後代迄の耻れ中
思ひもよらんとてこれ虎を助貴族のやれ分をたれも
城中の女童を敵に取らん事却て世の嘲りを重くして右
義を輕んぶるありそ上城中に妻子を弑しきまふを引
き思ふ程の戦ひ叶ふまに就かぬ君のた具諸人の為
に早に召見し玉ひといふれそ言番あ人の見見に任
女房を引見し大綱として落行くまにさきた六十里越
北山道にかりて近邊の世武士とも数多出合ひ落人お
取水する勢をきき追来る言番をえそあの人をたに